

富山地方気象台長からのご挨拶

富山地方気象台のホームページをご覧いただき、ありがとうございます。台長の常盤実（ときわみのる）です。令和2年4月で就任2年目となりました。引き続きよろしく願いいたします。

昨年の災害を振り返ってみますと、8月末に九州北部で記録的な豪雨による被害が、9月には台風第15号により主に関東地方で被害が、10月には台風第19号により関東甲信から東北地方にかけて広い範囲で甚大な被害が発生しました。富山県内では大きな災害に至ることがありませんでしたが、台風第19号では県東部を中心に大雨となり、アメダス朝日では日降水量として230.0mmを観測し、一日に降った雨の量としては、過去最大となりました。台風のコースがもう少し富山県に近ければ、さらに降水量も多くなり大きな被害が発生していたかもしれません。

また、富山県は地震の発生が全国的にみて少ない県ですが、周囲の県ではここ十数年の間に被害を伴う地震も起こっています。今年3月13日に能登半島を震源とした地震が発生し、石川県では震度5強を、県内でも7年ぶりに震度4を観測しました。県内には複数の活断層の存在が知られており地震や津波に対する備えも大切です。

富山県は山・海など自然に恵まれた土地です。自然は私たちに多くの恵みを与えてくれる一方で、時として大きな災害をもたらすこともあります。

富山地方気象台では、「自然災害から身を守るための防災気象情報」を発表しています。地域全体の防災力をよりいっそう向上していくために、引き続き県内の防災関係のみなさまと連携するとともに、地域に根ざした気象台として、きめ細やかな取り組みを進めてまいります。



令和2年4月

富山地方気象台長 常盤 実